

## 「テーマ学習」報告

総合学習検討委員会

井上 正允・濱本 悟志

# 「テーマ学習」報告

総合学習検討委員会

井上 正允・濱本 悟志

## I はじめに —「テーマ学習」の導入にあたって—

平成3年度から実施の指導要領で、中学校に大幅な選択科目が導入された。本校でもこの改訂に向けて作業を進める中で総合選択学習検討委員会が設置された。(本校の中学校の教育課程については次頁を参照して欲しい)

当初は中・高一貫で高校受験がないという利点を生かして、奈良女子大学附属、名古屋大学附属や東京大学附属で実施されている総合学習、テーマ研究などの試みが本校でも実施できないかということで、これら先進校の実践—「地域研究」「環境学習」「南北問題」などを検討することから始まった。

こうした学習は、従来教科の時間で個々に取り組まれてきているから総合学習を特設する必要はないという意見から、中学3年生だけでなく高校1年生まで広げなければ目論見通りの効果は期待できないというものまで、幅広い意見が出され、長時間にわたって論議を重ねた。また、教科時数の削減、5日制の導入の問題なども絡み、「テーマ学習」発足に至るまでの道のりは決して平坦ではなかった。

そもそも今回の文部省の改訂のねらいは「自ら学ぶ意欲と変化に主体的に対応できる能力がもとめられる」とか「物事を総合的に捉え、考察する能力と、自ら進んで課題を見つけ、取り組み、それを主体的に解決していこうとする学習の仕方を身につけておく必要がある」にあったはずである。その中で「個別化・個性化」が言われ、選択学習の拡大が唱えられた。しかしその後の進行は必ずしも当初のねらいどおりにはいっていないように思える。昨今は、高校入試の選抜資料としての「関心・意欲・態度」評価(点数化)ばかりが話題にのぼる。さいわいにして本校では中学3年生全員がそのまま高校に進学するから、こうした評価が混乱をもたらすことはなかった。しかし、「テーマ学習」は始まったばかりである。昨年度は、2回の校内研修会で検討会をもったが、まだまだ課題は山積している。

その一つをあげると、総合学習として構想された当初は、学際的課題を複数の教師がそれぞれ専門を生かしながら担当することで従来の教科学習では覆い尽くせない領域を学ぶことはできないか、たとえば環境問題を社会、理科、保健体育の連携で授業化できないか等である。これは実施2年目の今日まで実現していない。

また、テーマ学習と日常の教科学習、文化祭のクラスデコ、あるいは校外指導等との関連をどうはかるかは教科担任、学年担任団に一任されており全体で検討することはいまだにできてはいない。

さらに、担当教師の負担過重や教材準備の苦勞、予算不足・確保の問題、生徒の選択希望をどういかすか、関連資料・図書の絶対量の不足など問題は限りなく多い。

だから、今回このような形で報告することにたいしては時期尚早の声もあった。しかし、新しい研究主題「新しい時代における個性をのばす教育とはなにかーこれからの中・高一貫教育のありかたをさぐるー」（5年計画）もかたまり、ことしはその初年度にあたる。「多様化、個性化の時代」を迎えて自己教育力、主体的選択能力、創造性、表現力の育成が叫ばれる。しかも変化・流れのはげしい時代である。

今回は、報告するには内容的にはまだまだ不十分であることを承知しながら、「テーマ学習」の実施要項、年間のスケジュール、またこの新しい試みが生徒にどのように受けとめられているのか等を中心に報告し、ご指導、ご批判をあおぎたい。

#### 中学校教育課程

教 科 等	1 年	2 年	3 年	計
国 語	5	4	4	13
社 会	4	4	2	10
数 学	3	4	4	11
理 科	3	3	4	10
音 楽	2	2	1	5
保 健 体 育	3	3	4	10
技 術・家 庭	2	2	2	6
外国語（英語）	4	4	4	12
テ ィ マ 学 習	0	0	2	2
道 徳	1	1	1	3
特 別 活 動	1(1)	1(1)	1(1)	3(3)
合 計	30	30	30	90
学 校 裁 量	3(1)	3(1)	3(1)	9(3)

（備考）

- 表に示された数字は、週当りの授業時数です。
- （ ）を付した数字は学校裁量で、労作教育・文化活動・個人指導等にあてる。
- 特別活動の各学年1は、学級活動行う。
- 学校裁量の（ ）を付さない各学年の3は、次のように用いる。
  - 生徒総会。集会・委員会活動などを行うとともに、労作教育・文化活動・個人指導等を充実させる。
  - 図書スペース・ＡＶコーナー・ＬＬ教室・コンピユータスペース等を利用した自学学習。
  - その他学校が必要と認めた学習活動。
- テーマ学習では、中・高一貫制を生かし、教科学習の発展・深化および教科の枠のとられない課題・分野等の学習活動を行う。

## Ⅱ. 中学３年『テーマ学習』実施要綱（92年12月7日決定）

### 1. 名称の決定

名称は「テーマ学習」とする。ただし、関連する教科として、担当者の所属する教科名を通知表および指導要録に記載する。

### 2. 「テーマ学習」の内容・展開方法の検討（教科の係わり方）

#### (1) 「テーマ学習」の主旨

中高一貫で高校受験がないという本校の特色を生かすひとつの試みとして、次の２点を重視した学習活動を考える。

- ・既存の強化では必ずしも包摂できない分野や内容をも含めた諸領域での学習活動
- ・自らが選択したテーマを小人数で主体的に探求する学習活動

#### (2) 「テーマ学習」の内容

事前に提示された複数の講座より、１つないし２つの講座を選択し、担当の教官の指導のもと、その講座の掲げるテーマを学習する。

#### (3) 講座の実施形態

- ①週あたり連続２時間で半年間の実施を基本型とし、担当者は同一のテーマで前期・後期の２回にわたり実施する。ただし、通年での実施も可能とする。
- ②生徒は、前期・後期で異なる講座をそれぞれ１つ選択する。通年実施の講座については１つだけ選択する。
- ③１講座の人数は、原則として15名以上とする。

#### (4) 講座・担当者と教科の関連

- ①各教科は、可能な限り１講座は開講する。
- ②複数の教科に係わる講座や教科外の内容を含む講座の開講も可能とする。
- ③講師が担当する講座の開講も可能とする。
- ④１講座の担当者は１名を基本とする。ただし、複数での担当も可能とする。

#### (5) 開講する講座の決定方法

- ①１月当初に、各教科は開講する講座数を決定し、教科の総持ち時数を明確にする。
- ②各教科は、講師時数は確定した後、講座のテーマ、担当者、開講期間、開講可能人数を教務に提出する。（各教科での担当授業決定時）
- ③教務はそれらをもとに調整を行い、時間割作成上可能な講座を決定する。
- ④講座数は６をめやすとする。
- ⑤時間割作成上、担当不可能な者が事前に明らかな場合は、その者は予め担当者の対象とはしない。
- ⑥時間割作成時に開講不可能な講座が生じた場合は、その担当者の所属する教科内で講座

(テーマおよび担当者)の変更を行うものとする。

### 3. 評定・評価の仕方

次の要領で評価を行い、通知表および指導要録に記載する。

- ①評定は講座ごとに、A B Cの3段階評定で行う。(学年末5段階評定は行わない)
- ②評定は基本型の場合は前期・後期の2回、通年実施の場合は1回行う。
- ③通知表および指導要領は、講座の担当者の所属する教科名とその評定を記載する。

### 4. 生徒の選択の方法

次の要領で講座の選択決定を行う。

- ①4月当初の授業時に、教務主催で生徒向けオリエンテーション(担当者による講座の内容説明)および選択希望調査を行う。
- ②選択希望調査では、第4希望まで調査する。
- ③担任団は次の授業時まで、選択希望調査をまとめ、その結果をもとに調整を行い、前期および後期の全生徒の選択状況一覧を作成する。
- ④担任団は、選択状況を担当者と全生徒に知らせ、選択状況一覧を教務に提出する。

### 5. 実施後の諸問題への対処

- ①高校の新課程決定時に、I～IVの内容で実施上の支障が生じた場合は、その内容を再検討する。
- ②移行期(平成5～7年度)において、I～IVの内容の完全実施が困難な場合は、できるだけ「テーマ学習」の主旨を尊重しながら、それら内容を変更して対処する。
- ③「テーマ学習」が実施された後は、校内研修会等でその内容を反省、検討し、その後の指導に役立てる。

## Ⅲ. 93年度(平成5年度)の年間スケジュール

- (1) 担当教科・担当者の決定(2月中)
- (2) 担当者の実施内容の作成と生徒への配布(4月始業式) →資料1
- (3) テーマ学習オリエンテーション(1学期1週目)
  - ①担当者による学習内容の説明(プレゼンテーション)
  - ②希望調査
- (4) 選択の決定と発表(2週目まで) →資料2
- (5) 前期の講座を実施(9月まで)
  - ・前期の評点提出(12月中旬まで)
- (6) 後期の講座を実施(10月から3月まで)
  - ・後期の評点および学年評定提出(3月中旬まで)

資料1 実施内容（生徒への配布の1例）

H	テーマ名	体力・トレーニング論実習
担当者名 可能人数 実施教室 期 間	合田浩二 20名まで 311教室及び体育施設（主としてトレーニング室） 前記・後期それぞれ12回の開設を予定	
実 施 内 容		
<p>発育期には形態面の発育スパートだけでなく、骨格筋の解糖能力の向上により各運動種目において運動技能の著しい向上が見られる。この時期は個人により異なるが、集団としてとらえた場合はおおむね中学3年生頃となる。スキヤモンの発育曲線によると、スマートな動きを身につけるには10才前後が最適の年齢であるが、残念ながら本校生徒は受験勉強でこのチャンスを逃している。中学生頃にはスタミナづくりに対してトレーナビリティが高くなり、運動量を重視したトレーニングでスタミナが大幅に向上する。この時期に持久性種目で好成績をあげるのはトレーニング効果より、むしろ早熟である可能性が高い。</p> <p>本校の生徒が意識の面でも、実際の活動の場面でも各運動部で本格的に競技スポーツに取り組むのは高校2年から3年にかけての、いわば最後のシーズンである。それまでは上級生がいることから多くの生徒はレギュラー入りできず、したがってその種目特有の技術や必要とされる専門的体力、それ以前の一般的体力面に関する意識レベルが低く、ただ「練習をすればうまくなるだろう」という小学生的思考が続く。</p> <p>また、本校の生徒は発育が早い生徒が多く、あやまった動きが身についたまま小中学生レベルの大会で通用し、高校生レベルの大会では逆に体力不足のためにまったく相手にされないという傾向がある。そこで歴代の先輩達は「技術で勝負」としようと試みたが、技術は体力というベースがあってこそ生きるものであることが理解できず、結局「スポーツは根性だ」に行き着いてしまう。（在校生では42期生が体力トレーニングの必要性について理解している唯一の学年であろう。）</p> <p>そこで45期生の（主として）運動部員を対象として、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 スポーツマンとしての体力づくりのあり方</li><li>2 各種目に要求される専門的体力</li><li>3 正しい姿勢・合理的な動き</li></ol> <p>を理論的に理解したうえで、実習としてトレーニング室において、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>4 発育期に適したウエイトトレーニング</li><li>5 発育期に適したパワートレーニング</li><li>6 スポーツ障害を防ぐトレーニング</li></ol> <p>を進めたい。各クラブ2名ずつの履修が理想である。</p> <p>これまで身につけた変な動きを消し去るのには時間的な目安は立たないが、諸君の身体がトレーニングに対して反応を示すのに約3週間、筋肥大までには最低1ヶ月、運動技能に現れるには最低3ヶ月はかかる。言わばこれは次年度以降の活躍のためのトレーニングである。</p> <p>現状で満足している者、発育期のウエイトトレーニングには害があるという迷信を信じて疑わない者、技術種目にはウエイトトレーニングは動きが緩慢になってマイナスであると先輩から指導されている者には座学講座の履修を勧める。</p>		

資料2 テーマ学習開講講座一覧

区分	教科	テーマ名	担当者	教室	前期	後期
A	国語	宮沢賢治の童話を読む	関口先生	221	14名	14名
B	社会	人権侵害との闘い	林 先生	233	18名	17名
C	社会	東京を調べよう	小林先生	523	14名	
D	社会	英語で読む第2次世界大戦史	宮崎先生	234		17名
E	数学	数学の本を読もう	佐藤先生 城野先生	214 C.S.	15名	14名
F	理科	身の回りの科学	大谷先生	312～3	17名	18名
G	理科	化石の世界	高橋先生	321	17名	17名
H	体育	体力・トレーニング論実習	合田先生	211・トレ	16名	16名
I	英語	コミュニケーション能力を高めよう	鈴木先生 八宮先生	231	10名	9名

※希望達成状況

(1) 121名全員が第1希望を受講することができた。

(2) 希望達成状況

受講講座	人数	割合
第1と第2希望	81	67%
第1と第3希望	31	26%
第1と第4希望	9	7%

・第1希望を最優先

・第1希望ですでに定員を越えた講座では第

2・3希望を受け入れない。

テーマ学習(中3年)	
年間指導計画	年間時数
	10
	全体会
	テーマ別授業(2×15)×2

(前期 ... 4月～9月 後期 ... 10月～3月)

国語「宮沢賢治の童話を読む」(国口)「国」(林)「う」(小林)	社会「人権侵害との闘い」(林)「う」(小林)	社会「英語で読む新2次世界大戦」(宮崎 勇)「佐藤・城野」	理科「身の回りの科学」(大谷)	理科「化石の世界」(高橋)	保健体育「体力トレーニング」(合田)	英語「コミュニケーション能力を高めよう」(鈴木・八宮)
1. 1. 講座の進め方と今後の打ち合わせ	1. 日本の子どもの権利条約	1. 学習方法について	1. フェノールフタレインとフルオレセインの合成	1. 化石概論	1. 体力トレーニングのあり方・体調の管理	1. 自己紹介
2. 2. 討論の進め方(「手紙一四」を例に)	2. 教科書裁判生徒の学習	2. 日本の中国侵略	2. 本の概観、簡単なまとめを作る	2. 炭酸ロケット	2. 授業をしないためのトレーニング	2. 授業をしないためのトレーニング
3. 3. 討論(1)「オツベルと狼」	3. 学問の自由	3. イタリアのエチオピア侵略	3. 本を読む	3. カルメ焼き	3. 競技方向上のためのトレーニング	3. 競技方向上のためのトレーニング
4. 4. 討論(2)「注文の多い料理店」	3. 女性の人権と性別役割分業	4. スペイン内戦(各国の教科書と調べ、分相決定)	4. 本概観	4. 炭酸ロケット	4. ユニバーサル・マシーンの解説①	4. 「老人と海」(3) show and tell (3) スポーツの英語
5. 5. 討論(3)「北守将軍と三人の医者」	4. 憲法と消費者の権利	5. ナチス・ドイツとヒトラー	(中間報告・まとめの作成)	5. 炭酸ロケット	5. ユニバーサル・マシーンの解説②	5. 「老人と海」(4) show and tell (4) 文化祭発表文
6. 6. 討論(4)「やまなし」	5. ジャパン・カローにみる労働者の権利	6. 東京都市環境科学研究所の見学	4. 中間報告	6. 炭酸ロケット	6. 船カボットンにおける貨物と回数の認定	6. 「老人と海」(5) show and tell (5) 英作文発表
7. 7. 討論(5)「雪渡り」	6. 高齢者社会の生存権	7. 講演「環境と住民」(仮題)	5. 炭酸ロケット	7. 炭酸ロケット	7. フリーウェイト①・「老人と海」(6) show and tell (6) Bob greenの日記	7. 「老人と海」(7) show and tell (7) 英訳日本民話
8. 8. 討論(6)「水河風の毛皮」	7. 外国人労働者の人権	8. 調査テーマの決定・分相決定・休みを利用した各グループごとの調査	5. 関連内容を調べる	8. 炭酸ロケット	8. フリーウェイト②・基本的フォーム	8. 「老人と海」(8) show and tell (8)
9. 9. 討論(7)「どんぐりと山ねこ」	8. 企業家の海外進出と現地の人の人権	9. 調査報告のレポート作成	6. 発表	9. 炭酸ロケット	9. フリーウェイト③・ダンベルワーク	9. 「老人と海」(9) show and tell (9) funny(ghost) story
10. 10. 討論(8)「朝に駆ける」	9. 発表とまとめ	10. 発表とまとめ	10. 炭酸ロケット	10. 炭酸ロケット	10. プログラミング	10. 「老人と海」(10) show and tell (10) デモ発表
11. 11. 討論(9)「朝に駆ける」	10. 発表とまとめ	11. ドイツの敗北	11. 炭酸ロケット	11. 炭酸ロケット	11. トレーニング期間	11. 「老人と海」(11) show and tell (11) デモ発表
12. 12. 討論(10)「朝に駆ける」	11. 発表とまとめ	12. 日本の敗北	12. レポートのまとめと発表	12. レポートのまとめと発表	12. 計画の立案	12. 異文化コミュニケーションの向上を図る
13. 13. 討論(11)「朝に駆ける」	12. 発表とまとめ	13. 発表とまとめ		13. 発表とまとめ	13. 発表とまとめ	13. 発表とまとめ

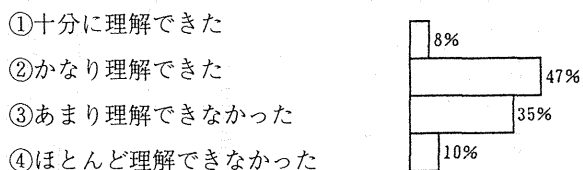


#### Ⅳ. 実施後の生徒アンケート

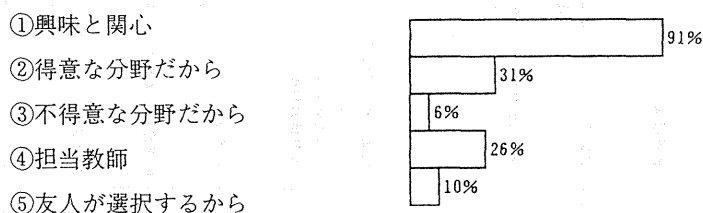
93年度中学3年生(45期生)119名について2月23日に実施されたアンケート結果を集計したものである。

##### 1. オリエンテーションと希望調査について

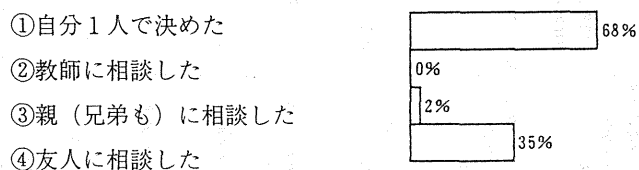
(1) 4月のオリエンテーションで、実施される講座の内容は理解できましたか。



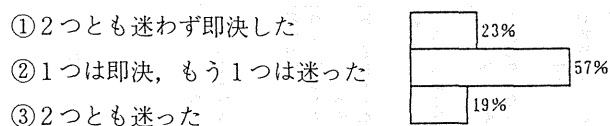
(2) 講座を選択するのに何を基準にしましたか。(複数回答)



(3) 講座を選択する際、誰の意見を参考にしましたか。(複数回答)



(4) 講座を選択する際、迷いましたか。



(5) 選択の決定の方法に不満はありますか。

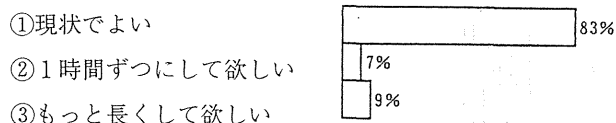


Q 1 選択の決定について要望がありましたら、その点を書いて下さい。

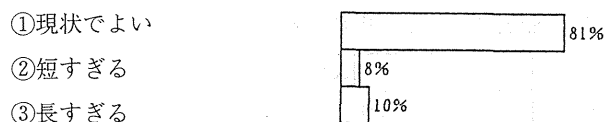
- ・第1, 2希望を重視し, 第4希望は採用しないで欲しい (14)
- ・前後期を別々に希望調査して欲しい (後期は前期の様子を見て決めたい) (5)
- ・講座の説明が実際の内容と違わないように (4)
- ・人数枠はなくして欲しい (2)
- ・希望の少ない講座は開講しないで欲しい (2)
- ・講座の種類を多くして欲しい
- ・テーマについても希望調査をして欲しい
- ・途中変更ができるようにして欲しい

## 2. 講座の実施形態について

(6) 現在, 週あたり2時間連続で講座が実施されています。どう思いますか。



(7) 現在, 1講座を半年間で実施しています。これについてどう思いますか。

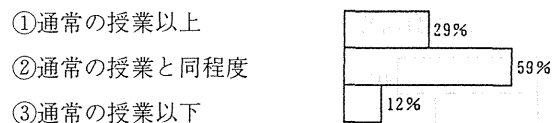


Q 2 講座の実施形態について要望がありましたら、その点を書いて下さい。

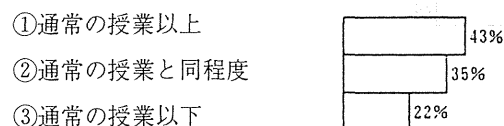
- ・文化系の講座では短すぎる
- ・土曜日にして欲しい
- ・通常の授業を減らし, 同時に2講座を実施して欲しい

## 3. 授業時間の学習について (前期の講座を念頭に置いて下さい)

(8) 授業時間では, 自分の能力を発揮することができましたか。



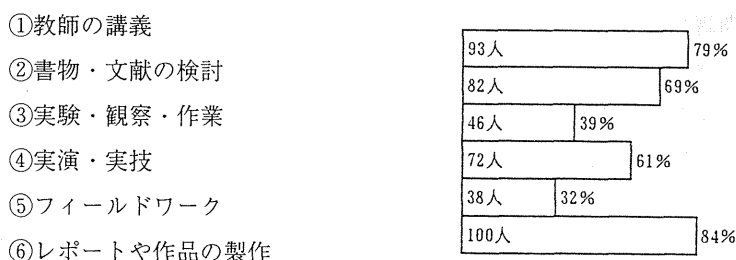
(9) 授業時間では, 教師から多く学ぶことができましたか。



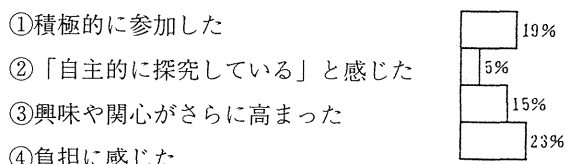
(10) 授業時間では、友人から多く学ぶことができましたか。 \*



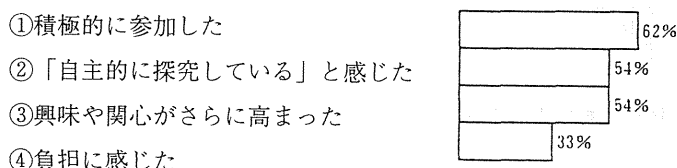
(11) 授業時間ではどのような形態がとられましたか。(複数回答)



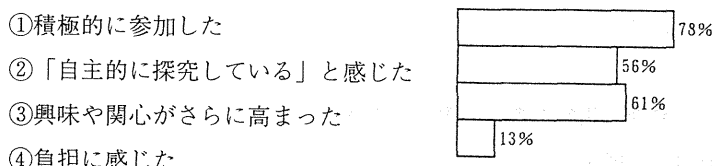
(12) (11)①「教師の講義」について、(93名について、複数回答)



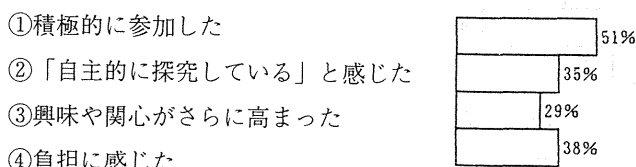
(13) (11)②「書物・文献の検討」について、(82名について、複数回答)



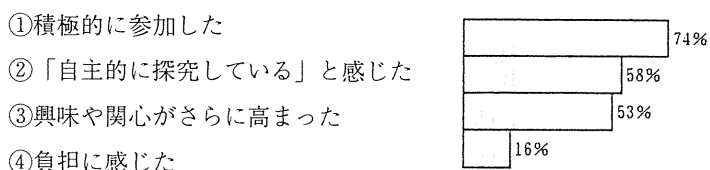
(14) (11)③「実験・観察・作業」について、(46名について、複数回答)



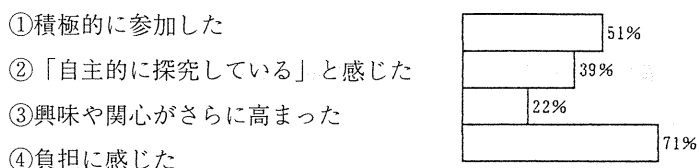
(15) (11)④「実演・実技」について、(72名について、複数回答)



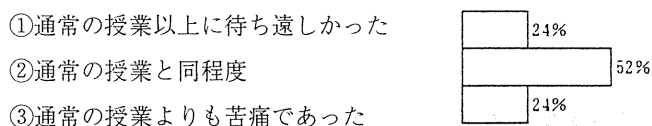
(16) (11)⑤「フィールドワーク」について、(38名について、複数回答)



(17) (11)⑥「レポートや作品の製作」について、(100名について、複数回答)



(18)授業時間を待ち遠しく思いましたか。



Q 3 授業のやり方について要望がありましたら、その点を書いて下さい。

- ・ 授業を計画的に、手際良く、十分に準備して欲しい (4)
- ・ 講義を多めにして欲しい (3)
- ・ 途中に休憩を入れて欲しい (2)
- ・ 負担が不公平である
- ・ 本ばかり読みたくない
- ・ 専門的な学習をして欲しい
- ・ 外へ出たい
- ・ 1日フリーの日(休日以外に)を作って欲しい

4. 授業時間外の学習について(前期の講座を念頭に置いて下さい)

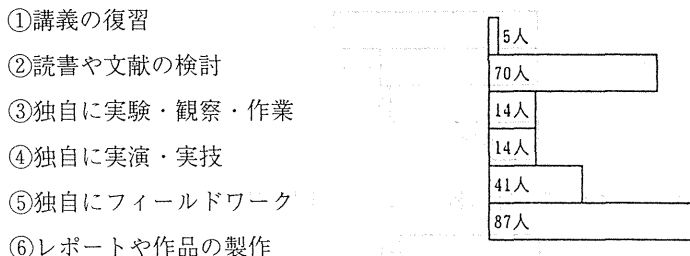
(19) 授業時間以外でも積極的に取り組みましたか。



(20) 授業時間以外では誰と学習をしましたか。(複数回答)



(21) 授業時間以外は、どのような学習をしましたか。(複数回答)

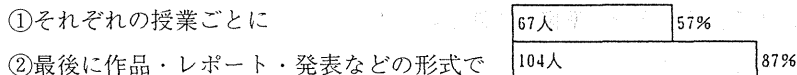


Q 4 授業時間外の学習について要望がありましたら、その点を書いて下さい。

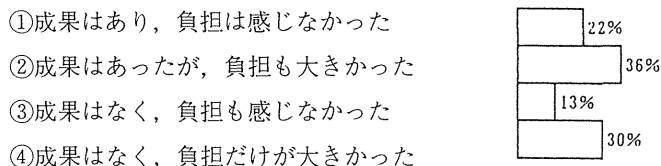
- ・レポートの負担を減らして欲しい (12)
- ・レポートをもっと重視して欲しい
- ・本を貸し出して欲しい
- ・宿題を少なくして欲しい

5. 研究成果の発表について(前期の講座を念頭に置いて下さい)

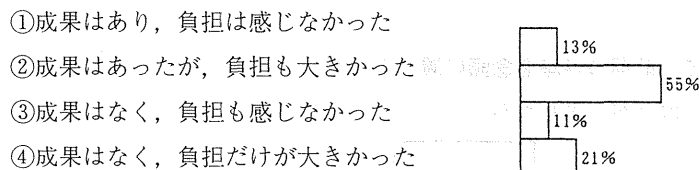
(22) 研究成果の発表はどのようにして行われましたか。(複数回答)



(23) (22)で①を答えた人(67名)は、その成果と負担についてどう思いますか。



(24) (22)で②を答えた人(104名)は、その成果と負担についてどう思いますか。



6. 前期の講座全般について

(25) テーマに対して、主体的に探究することができましたか。

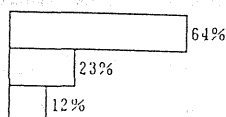


26) 受講前に比べて、テーマに対する興味や関心は高まりましたか。

①受講前より高まった

②受講前と同程度

③受講前より低下した



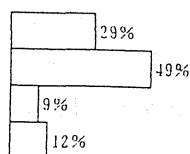
27) 学習面の成果と負担について、どう思いますか。

①成果はあり、負担は感じなかった

②成果はあったが、負担も大きかった

③成果はなく、負担も感じなかった

④成果はなく、負担だけが大きかった



Q 5 前期の講座全般について要望がありましたら、その点を書いて下さい。

- ・役に立つ、実用的な授業をして欲しい
- ・よい本を紹介して欲しい
- ・レポートは夏休みを有効に活用できた
- ・専門的分野を取り入れて欲しい
- ・通常の授業では扱えないテーマで実施して欲しい
- ・教師がガンバリすぎると負担が大きい
- ・理系は自分の意志が反映しにくい

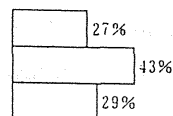
## 7. 後期の講座の取り組みについて

28) 前期の講座と比較して、学習する姿勢は変わりましたか。

①前期より積極的

②前期と同程度

③前期より消極的

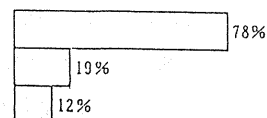


29) 28で①を答えた人(32名)は、その理由は何ですか。

①前期の講座より興味や関心があるから(希望順位が高いから)

②前期の講座を通じて、テーマ学習の成果が期待できるようになったから

③前期の講座を通じて、学習面の負担が小さいと感じたから



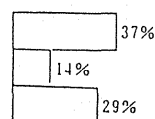
30) 28で③を答えた人(35名)は、その理由は何ですか。

①前期の講座ほど興味や関心がないから(希望順位が低いから)

②前期の講座を通じて、テーマ学習の成果が期待できなくなったから

③前期の講座を通じて、学習面の負担が大きくなったと感じたから

④その他



## V. とりあえずのまとめと今後の課題

これまで「テーマ学習」発足までの足取りと、その実施要項、さらに実施内容及び授業形態・方法の一端を紹介し、併せて「テーマ学習」が生徒にどのように受けとめられているのかをアンケートの分析によってみてきた。アンケートの結果については教師の予想を超えて「テーマ学習」が積極的、好意的に生徒に受けとめられていると考えてよいだろう。

その主たる特徴、傾向を以下に列举してみる。

- ・週当たり2時間連続の講座を半年間で回し、1年で2テーマ選ぶという授業形態に満足していること。
- ・「テーマ学習」では、通常の授業と同程度に自分の能力が発揮できており、教師からは通常の授業以上に学ぶことができたと感じている。
- ・授業形態は、講義、文献の検討、実験・観察、実演・演技、フィールドワーク、レポート作成など多岐にわたるが、講義を除けば、そのどれにも積極的に参加したとしている。ただしレポート作成については、積極的であったが負担も大きかったと感じている生徒が7割を超える。
- ・授業時間以外でも、文献の検討、レポートの作成に積極的に取り組み、自分ひとりで、あるいは友人との協同作業ですすめたとしている。
- ・「テーマ学習」については、6割前後の生徒が成果があったと答え、その内の7割以上が負担も大きかったとしている。
- ・テーマに対して、ほぼ6割の生徒が受講前より興味・関心が高まり、主体的に探究できたと感じている。

負担を感じながらも積極的に参加し充実感もあったと、生徒には概ね好評な「テーマ学習」だが、担当した教師にとってはどうだろう。昨年は、2回の校内研修会で「テーマ学習」の検討会をもった。

週1回（2時間連続）の授業であるとはいっても、指導要領や教科書などのような枠組みがあるわけではないから、半期14～5週の「テーマ学習」の内容・方法を一から考え、教材・資料を準備する。テーマに興味・関心のある少人数の生徒を相手にする授業である。当然、準備にも力が入るし、時間もかかる。思うように予算が確保できず、関連資料・図書も不足がち、フィールドワークの事前実踏の費用も自前で……ということになると、通常の授業・校務に加えて余計なものを抱え込んだという気分にもなる。

検討会でも、こうした問題点がいくつも報告されたが、改善できるところから手をつけて、当面は担当教師それぞれが試行錯誤を重ねながら独自のスタイル・方法で続けてみようということが確認されている。生徒の予想以上の反応に引きずられ、励まされ、「なんとか形を作らねば…」というのが教師サイドの正直な気持ちである。

Iでも紹介したが、こうした学習はこれまでも通常の教科学習の中で、文化祭のデコ作りの過

程で、弁論大会に向けてのクラスの取り組みの中で、あるいは中1の武尊・中2東京のフィールドワーク、中3の岩手を中心とした修学旅行などの校外指導の中でも、部分的には取り組まれてきている。ただし、すべて教科担任、学年・学級担任の裁量にまかされており、学校全体で「そのあり方」をめぐって討議・検討してはこなかった。

こうした学習に先進的・意欲的の取り組んできた奈良女子大学附属、名古屋大学附属、東京大学附属、筑波大学附属中、最近では大阪教育大学附属平野中、金沢大学附属高等の研究開発実験校の報告もされている。本校の「テーマ学習」とは大きなねらいは一致してても、内容・方法に関して、それらのいずれとも微妙に異なる。

男子校であること、高校から新たに40人を受け入れること、地域性のちがいが、生徒のもっている個性や資質・傾向なども当然ちがうから、その善し悪しを軽々に論ずることは意味がない。要は、学校の教育課程全体を見通す中で、こうした学習がいかなる意味を持ち、生徒ひとりひとりの人間形成にどう絡んでいくのが問題になる。

はじめにも述べたように本校の「テーマ学習」は始まったばかりである。忌憚のないご意見、ご批判をお願いしたい。